

平成28年3月  
青森市（青森県）

○計画期間:平成24年4月～平成29年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

**1. 平成27年度終了時点(平成28年3月31日時点)の中心市街地の概況**

本市では、平成19年2月に国の認定を受けた「第1期青森市中心市街地活性化基本計画」の計画期間終了に伴い、「第2期青森市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成24年3月に国の認定を受け、引き続き、中心市街地活性化に積極的に取り組んでいる。

本市の中心市街地は、平成22年12月の東北新幹線全線開業効果や、第1期計画に位置づけた「青森市文化観光交流施設ねぶたの家 ワ・ラッセ」などの整備効果により、特にウォーターフロント地区においてにぎわいを創出している。一方で、中心市街地の核的施設である「フェスティバルシティ アウガ」の入館者数が減少しているなど、地方都市における長引く景気低迷を背景に、中心市街地を取り巻く環境は、非常に厳しい状況が続いている。

平成27年度は、ウォーターフロントエリアの旧青函連絡船発着地周辺海域において人工海浜を整備し、併せて、海への愛着心醸成を図る「あおり駅前ビーチプロジェクト」など6事業の追加のほか、事業内容及び事業主体の変更などを内容とする第2期計画の変更を申請し、本年3月15日に国の認定を受けたところであり、平成28年3月末現在、全52事業のうち、8事業が完了及び終了、44事業が実施中となっている。

本市としては、第2期計画に掲げた「ウォークブルタウンの確立」を目標に、計画に位置づけた事業を着実に進めるとともに、事業の追加や変更など、必要に応じた計画の見直しを通じて、引き続き、中心市街地の活性化を強力的に推進していく。

**2. 平成27年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

「第2期青森市中心市街地活性化基本計画」について、青森市と協議会で総会のほか、必要に応じ、タウンマネジメント会議・運営委員会といった会議を開催すると共に、民間事業者・商店街関係者・関係各機関において構成される「青森市街づくりあきんど隊 朝会議」を月1回開催し、各種事業の協議等を行うなど、継続して官民が密接な連携をしながら取り組んできた。

中心市街地における交流人口の拡大、空き地・空き店舗の解消など、順調に推移している状況もある一方、核的施設である青森駅前再開発ビル「フェスティバルシティ アウガ」の集客力低迷など、厳しい状況もある。

「第2期青森市中心市街地活性化基本計画」に掲げる目標のうち、「街の楽しみづくり（歩行者通行量）」、「街ぐらし（夜間人口）」については、評価指標の実績値が再び減少に転じていることから、今後、計画に位置づけた核的事業の着実な推進や既存事業の見直し、新規事業の展開等により、中心市街地全体の回遊性向上を図るなど、目標達成に向け、中心市街地活性化のより一層の推進を求める。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

| 目標       | 目標指標                            | 基準値<br>(H22) | 目標値<br>(H28) | 最新値<br>(H27) | 前回の<br>見通し | 今回の<br>見通し |
|----------|---------------------------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|
| 街の楽しみづくり | 歩行者通行量 (20 地点)<br>(人/日)         | 74,048       | 77,554       | 60,982       | ③          | ③          |
| 交流街づくり   | 年間観光施設入込客数 (暦年)<br>(人/年)        | 1,117,370    | 1,719,100    | 1,555,258    | ①          | ①          |
| 街ぐらし     | 夜間人口 (人)                        | 3,547        | 3,737        | 3,450        | ①          | ①          |
| 商業の活性化   | 空き地・空き店舗率 (%)                   | 16.4         | 13.1         | 13.1         | ①          | ①          |
|          | 【参考指標】<br>小売業年間商品販売額<br>(百万円/年) | -            | -            | 41,622       | -          | -          |

- 注) ①取組 (事業等) の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。  
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。  
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### ① 歩行者通行量について

平成27年の平日における一日あたりの歩行者通行量は、平成22年基準値74,048人との比較で13,066人減の60,982人となっている。

前回フォローアップの平成26年については、ウォーターフロント地区における新規イベントの実施や、平成25年10月に完了した中新町ウエスト地区、平成26年8月に完了した中新町センター地区の2つの再開発事業の完了事業効果、クルーズ客船の来航数増加の効果等により、一時回復したが、平成27年については、ウォーターフロント地区を含む大部分の地点で減少傾向となり、歩行者通行量は前年と比較して6,010人減となった。

中心市街地の核的施設である青森駅前再開発ビル「フェスティバルシティ アウガ」の来館者数が減少傾向にあるなど、中心市街地の状況は非常に厳しいものではあるが、平成27年度は、当初計画のスケジュールから遅れていた「青森駅周辺整備推進事業」への着手や「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」の施設建築物工事に着手するとともに、中心市街地におけるにぎわい創出など、多様な活動を行う、サークル等の学生団体に対して支援する「まちなかフィールドスタディ支援事業」など、新規事業を6事業追加したところである。

今後は、関係機関等との連携・協力を継続するとともに、既存事業の推進や事業の新規追加等により、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

#### ② 年間観光施設入込客数について

平成27年の年間観光施設入込客数は、平成22年基準値111万7,370人と比較して、43万7,888人増の155万5,258人となっている。

平成27年は、主要な観光施設の1つである「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」が、機能更

新に向けた改修工事期間の一定期間に入館制限等を行った影響により入込客数は減少したが、市民にアート、音楽を楽しむ機会を提供する「アートで音楽のあるまちづくりイベント A-Paradise」の継続開催に加え、外国人観光客対応や体験型観光の積極的対応を行った「青森市文化観光交流施設 ねぶたの家ワ・ラッセ」における入込客数が好調に推移し、全体では、前年と比較して32,433人増となった。

観光施設が立地するウォーターフロント地区は依然として、観光客、市民のイベント参加などで賑わいを見せている。

今後は、各種イベントの継続実施や、新規展開、施設間連携に加え、クルーズ客船の来航効果、平成28年3月26日に開業を迎えた北海道新幹線 新青森・新函館北斗間を本市経済活性化の契機と捉えた事業展開、平成28年6月に実施され、約26万人を見込む東北六魂祭などのイベントでの集客効果等により、目標達成は可能と見込んでいる。

### ③ 夜間人口について

平成27年の夜間人口は、平成22年基準値3,547人との比較で97人減の3,450人となっている。

前回フォローアップの平成26年については、中新町センター地区の再開発事業の効果により、全体として一時回復したが、平成27年については、少子高齢化・人口減少の進展により、前年と比較して40人減となった。

全体として微減となったものの、今後は、平成28年3月に施設建築物工事に着工した「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」による事業効果や、住宅供給促進に関する支援等により、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

### ④ 空き地・空き店舗率について

平成27年の空き地・空き店舗率については、平成22年基準値16.4%との比較で3.3ポイント改善の13.1%で、平成26年実績値と比較して0.2ポイント改善となっている。

市が実施する店舗の新増設等への融資制度である「中心市街地にぎわいプラス資金融資」をはじめ、空き店舗を借り上げる際の家賃及び改装助成制度である「商店街空き店舗対策事業」の事業効果などにより、空き地・空き店舗の解消は順調に進み、目標値と同率となった。

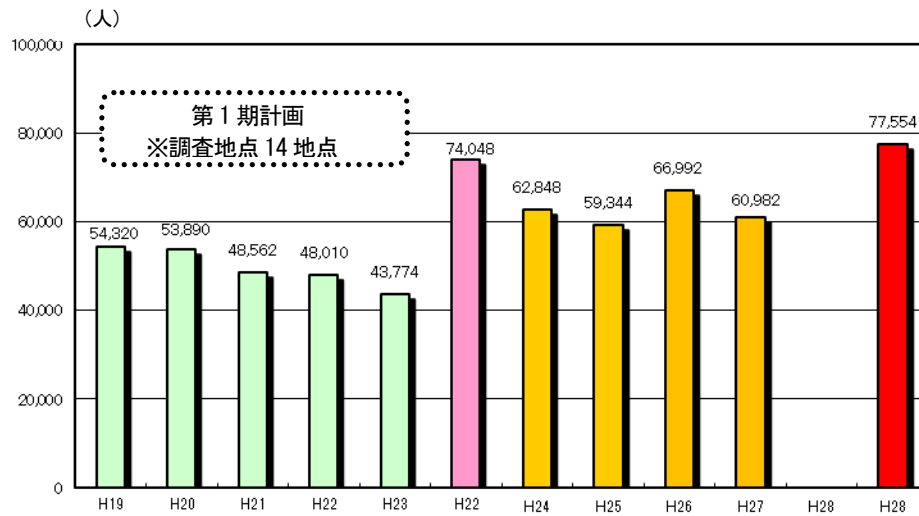
今後も、「中心市街地にぎわいプラス資金融資」、「商店街空き店舗対策事業」の継続実施に加え、平成27年度に新規事業追加した、中小企業者等をサポートするビジネス交流拠点と、首都圏におけるビジネス交流拠点を結び、新たな商品開発や販路拡大等の促進を行う「青森と首都圏をつなぐビジネス交流拠点構築事業」等の事業効果により、各種補助制度との一体的な取組を通じて、更なる改善を目指す。

## 3. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップ結果から変化なし。

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P44～P53 参照

1. 調査結果の推移



| 年   | 人/日              |
|-----|------------------|
| H22 | 74,048<br>(基準年値) |
| H23 | —                |
| H24 | 62,848           |
| H25 | 59,344           |
| H26 | 66,992           |
| H27 | 60,982           |
| H28 | 77,554<br>(目標値)  |

※調査方法；午前9時から午後7時までの10時間、それぞれ1時間のうち30分間計測し、その2倍を1時間当りの数値として集計（20地点）

※調査月；6月

※調査主体；青森商工会議所

※調査対象；自転車を含む中学生以上の歩行者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 青森駅周辺整備推進事業（青森市）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【未】平成32年度   |
| 事業概要       | 青森駅周辺地区において、自由通路、駅、都市サービス施設の一体的な整備と、青森駅東口・西口を機能分担し、一体となって多様な交通手段に対応できる交通ターミナルとして整備を行う。  |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度 事業着手</li> <li>平成32年度 事業完了予定</li> <li>青森駅前駐輪場と青森駅ビルラビナ前2地点を合計し926人/日の歩行者通行量の増加を見込む。</li> </ul> |

②. 中新町ウエスト地区優良建築物等整備事業（中新町ウエスト街区まちづくり協議会）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【済】平成25年度（平成24年度繰越）   |
| 事業概要       | 老朽化したビル、空き地及び中小小売店舗等の共同化・集約化により、ケーブルテレビのネットワークを活用した情報発信センターをはじめ、教育・人的交流の活動拠点やオフィスなど、多機能型の施設整備を行う。   |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年7月 工事着手</li> <li>平成25年9月 竣工</li> <li>「③中新町センター地区優良建築物等整備事業」の事業完了との相乗効果により、推計1,077人の歩行者通行量の増加のほか、各種イベント等の実施により、周辺地区の賑わいや回遊性向上に寄与した。</li> </ul> |

③. 中新町センター地区優良建築物等整備事業（中新町センターまちづくり合同会社）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【済】平成26年度(平成25年度繰越)   |
| 事業概要       | 老朽化した中小小売店舗等及び空き店舗等の共同化・集約化により、魅力的な商業空間やパブリックスペース、居住など、複合的な機能を有する施設整備を行う。   |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年11月 工事着手 ・平成26年8月 竣工</li> <li>・「②中新町ウエスト地区優良建築物等整備事業」の事業完了との相乗効果により、推計1,077人の歩行者通行量の増加に寄与した。</li> <li>・52戸の住宅供給により、推計で夜間人口118人の増加により、周辺地点で約700人の歩行者通行量の増加に寄与した。</li> </ul> |

④. 古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業

(古川一丁目12番北地区まちづくり協議会)

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【未】平成28年度   |
| 事業概要       | 市民の台所「古川市場」街区の一部において、老朽化した建物及び空き店舗の共同化・集約化により、居住、公共的通路とポケットパークを備えた施設の整備を行う。   |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年11月解体工事実施 ・平成28年3月施設建築物工事着工</li> <li>・56戸の住宅供給により、推計で夜間人口128人の増加と、周辺地点で約768人の歩行者通行量の増加を見込む。</li> </ul> |

⑤. 【追加】 駅前子育て支援事業（株式会社JR東日本青森商業開発）

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 【実施中】平成25年度～   |
| 事業概要       | 子供たちが天候や気候に左右されず遊べる場を提供し、親子の心身発達に貢献するとともに、中心市街地における親子連れの集客を図る。   |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年1月 施設オープン</li> <li>・平成26年1月～平成28年3月末 利用者数50,318人</li> </ul> |

⑥. 【追加】 まちなかフィールドスタディ支援事業（青森市）

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 【実施中】平成27年度～   |
| 事業概要       | 中心市街地のにぎわい創出など、多様な活動を行う、サークル等の学生団体に対して支援を行う。                 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成27年度は、市内の学生団体10団体が中心市街地において行う、学生ファッションショーやミュージカル公演等の実施を支援。 |

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年の平日における一日あたりの歩行者通行量は、平成22年基準値74,048人との比較で13,066人減の60,982人となっている。

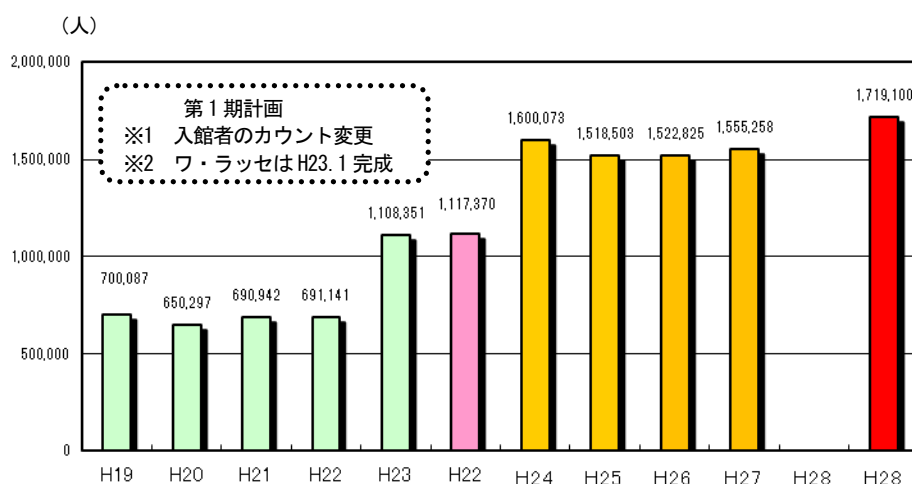
前回フォローアップの平成26年については、ウォーターフロント地区における新規イベントの実施や、平成25年10月に完了した中新町ウエスト地区、平成26年8月に完了した中新町センター地区の2つの再開発事業の完了事業効果、クルーズ客船の来航数増加の効果等により、一時回復したが、平成27年については、ウォーターフロント地区を含む大部分の地点で減少傾向となり、歩行者通行量は前年と比較して6,010人減となった。

中心市街地の核的施設である青森駅前再開発ビル「フェスティバルシティ アウガ」の来館者数が減少傾向にあるなど、中心市街地の状況は非常に厳しいものではあるが、平成27年度は、当初計画のスケジュールから遅れていた「青森駅周辺整備推進事業」への着手や「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」の施設建築物工事に着手するとともに、中心市街地におけるにぎわい創出など、多様な活動を行う、サークル等の学生団体に対して支援する「まちなかフィールドスタディ支援事業」など、新規事業を6事業追加したところである。

今後は、関係機関等との連携・協力を継続するとともに、既存事業の推進や事業の新規追加等により、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

「年間観光施設入込客数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P57 参照

1. 調査結果の推移



| 年   | 人／年                 |
|-----|---------------------|
| H22 | 1,117,370<br>(基準年値) |
| H23 | —                   |
| H24 | 1,600,073           |
| H25 | 1,518,503           |
| H26 | 1,522,825           |
| H27 | 1,555,258           |
| H28 | 1,719,100<br>(目標値)  |

※調査方法；関係機関への聞き取り調査

※調査月；5月

※調査主体；青森市

※調査対象；青森県観光物産館アスパム、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸、青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」の入込客（暦年）

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 港湾文化交流施設改修事業（青森市）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【済】平成27年度   |
| 事業概要       | 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸のよりよい保存に向けた船体の調査等を行う。  |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度から平成25年度にかけて調査及び詳細設計を実施。平成26年度より改修工事開始。平成21年2月に近代化産業遺産に、平成23年8月に日本機械学会から機械遺産に認定された青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を良好な状態で保存をしていく。</li> <li>事業実施により、入込客数19,200人の増加を見込む。</li> </ul> |

②. 【追加】青森港国際化推進事業（青森港国際化推進協議会）

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 【実施中】平成27年度～   |
| 事業概要       | クルーズ客船等の誘致活動と、誘致客船の乗客・乗員に対する中心市街地への回遊促進の取組みを実施する。  |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度 クルーズ客船22隻が来航し、乗客乗員約45,000人が本市を訪れた。</li> <li>平成28年度 クルーズ客船21隻の来航を予定している。</li> </ul> |

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年の年間観光施設入込客数は、平成22年基準値111万7,370人と比較して、43万7,888人増の155万5,258人となっている。

平成27年は、主要な観光施設の1つである「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」が、機能更新に向けた改修工事期間の一定期間に入館制限等を行った影響により入込客数は減少したが、市民にアート、音楽を楽しむ機会を提供する「アートで音楽のあるまちづくりイベント A-Paradise」の継続開催に加え、外国人観光客対応や体験型観光の積極的対応を行った「青森市文化観光交流施設 ねぶたの家ワ・ラッセ」における入込客数が好調に推移し、全体では、前年と比較して32,433人増となった。

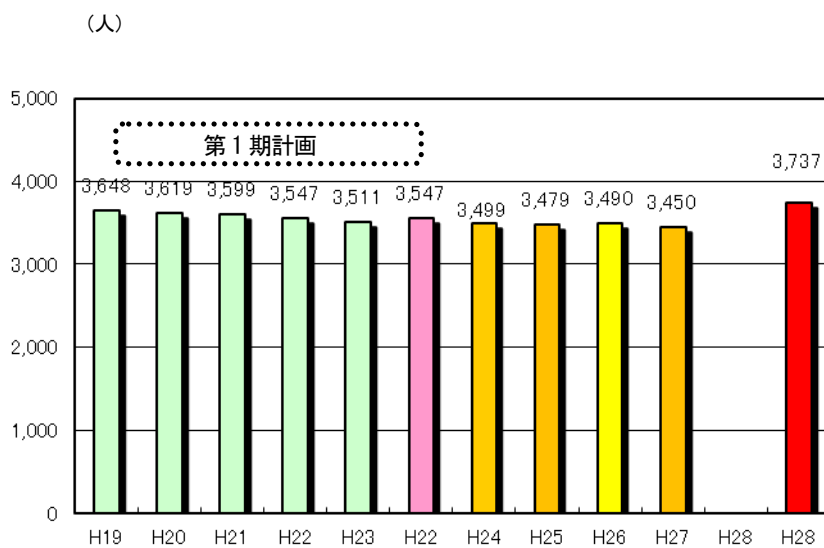
観光施設が立地するウォーターフロント地区は依然として、観光客、市民のイベント参加などで賑わいを見せている。

今後は、各種イベントの継続実施や、新規展開、施設間連携に加え、クルーズ客船の来航効果、平成28年3月26日に開業を迎えた北海道新幹線 新青森・新函館北斗間を本市経済活性化の契機と捉えた事業展開、平成28年6月に実施され、約26万人を見込む東北六魂祭などのイベントでの集客効果等により、目標達成は可能と見込んでいる。



「夜間人口」※目標設定の考え方基本計画 P57～P59 参照

1. 調査結果の推移



| 年   | 人               |
|-----|-----------------|
| H22 | 3,547<br>(基準年値) |
| H23 | 3,511           |
| H24 | 3,499           |
| H25 | 3,479           |
| H26 | 3,490           |
| H27 | 3,450           |
| H28 | 3,737<br>(目標値)  |

※調査方法；住民基本台帳からの集計

※調査月；10月（9月末日現在）※平成26年以降は10月1日現在

※調査主体；青森市

※調査対象；中心市街地内住所の住民基本台帳登録者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中新町センター地区優良建築物等整備事業（中新町センターまちづくり合同会社）

【再掲】 P5参照

②. 古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業

（古川一丁目12番北地区まちづくり協議会）

【再掲】 P5参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

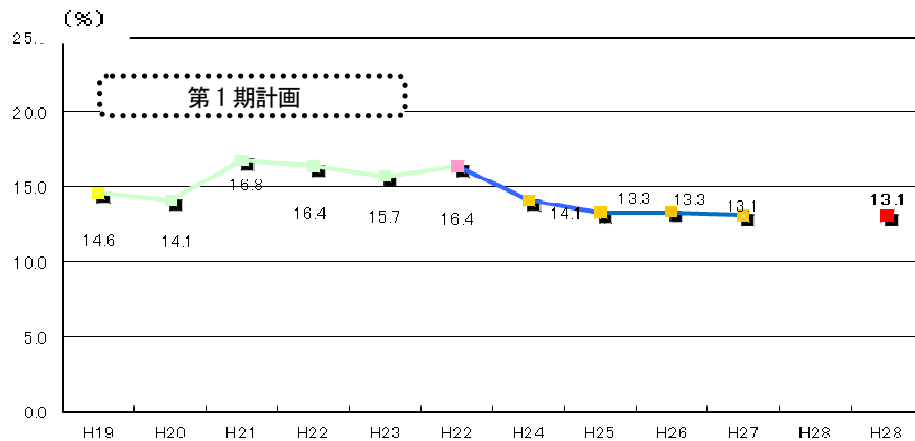
平成27年の夜間人口は、平成22年基準値3,547人との比較で97人減の3,450人となっている。

前回フォローアップの平成26年については、中新町センター地区の再開発事業の効果により、全体として一時回復したが、平成27年については、少子高齢化・人口減少の進展により、前年と比較して40人減となった。

全体として微減となったものの、今後は、平成28年3月に施設建築物着工となった「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」による事業効果や、住宅供給促進に関する支援等により、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

「空き地・空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画 P60～P64 参照

1. 調査結果の推移



| 年   | %              |
|-----|----------------|
| H22 | 16.4<br>(基準年値) |
| H23 | 15.7           |
| H24 | 14.1           |
| H25 | 13.3           |
| H26 | 13.3           |
| H27 | 13.1           |
| H28 | 13.1<br>(目標値)  |

※調査方法；現場確認による空き地・空き店舗調査

※調査月；10月

※調査主体；青森市

※調査対象；中心市街地にある商店街の空き地・空き店舗

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地にぎわいプラス資金融資（青森市）

|            |  |
|------------|--|
| 事業完了時期     | 【実施中】平成18年度～   |
| 事業概要       | 商業機能の充実にに向けた民間投資を誘導するため、中小企業者を対象とした中心市街地区内で行われる店舗の新增設等への融資制度を創設し、当該融資による利子及び保証料を補給 |
| 事業効果又は進捗状況 | ・平成18年度から平成27年度までに41件融資を行っており、空き地・空き店舗解消が35件となっている。今後も更なる空き店舗の解消を目指す。              |

②. 商店街空き店舗対策事業（青森市）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【実施中】平成24年度～  |
| 事業概要       | 中心市街地の区域内にある商店街などの空き店舗に出店しようとする中小企業者等に対して、家賃及び店舗改装費の一部を補助する。                      |
| 事業効果又は進捗状況 | ・平成27年度は11件の新規申請者に対し家賃補助及び改装費補助を行い、事業開始からこれまで、空き店舗解消が31件となっている。今後も更なる空き店舗の解消を目指す。 |

### ③. 【追加】青森と首都圏をつなぐビジネス交流拠点構築事業（青森市）

|            |   |
|------------|---|
| 事業完了時期     | 【実施中】平成27年度～  |
| 事業概要       | 中心市街地に今後整備する新たに起業・創業しようとする方や中小企業者等をサポートするビジネス交流拠点と、首都圏におけるビジネス交流拠点を結び、新たな商品開発や販路拡大等の促進を行う。  |
| 事業効果又は進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"><li>・平成27年度は、新たに東京都港区赤坂に首都圏のビジネス交流拠点を整備し、オープンした。</li><li>・中心市街地においては、起業・創業等相談ルーム運営事業を継承し、構想・企画の段階から起業・創業の実現に至るまでの各種相談業務を継続している。</li><li>・相談件数のべ 398 件</li><li>・中心市街地における支援制度手続き補助 6 件</li></ul> |

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年の空き地・空き店舗率については、平成22年基準値16.4%との比較で3.3ポイント改善の13.1%で、平成26年実績値と比較して0.2ポイント改善となっている。

市が実施する店舗の新增設等への融資制度である「中心市街地にぎわいプラス資金融資」をはじめ、空き店舗を借り上げる際の家賃及び改装助成制度である「商店街空き店舗対策事業」の事業効果などにより、空き地・空き店舗の解消は順調に進み、目標値と同率となった。

今後も、「中心市街地にぎわいプラス資金融資」、「商店街空き店舗対策事業」の継続実施に加え、平成27年度に新規事業追加した、中小企業者等をサポートするビジネス交流拠点と、首都圏におけるビジネス交流拠点を結び、新たな商品開発や販路拡大等の促進を行う「青森と首都圏をつなぐビジネス交流拠点構築事業」等の事業効果により、各種補助制度との一体的な取組を通じて、更なる改善を目指す。